



庄原赤十字病院
感染管理認定看護師 山根 啓幸

「新型インフルエンザ」

新型インフルエンザの脅威

『新型インフルエンザ』という言葉覚えて
いますか？ 昨年の広報しよばら10月号で
は、インフルエンザH5N1・通称『鳥インフ
ルエンザ』が、ヒトからヒトに感染するよう
に形を変えて、新型インフルエンザとなる可
能性があると話しました。その『鳥インフル
エンザ』ですが、実はその後も世界各地で猛
威を振るっていて、平成20年11月現在、患者
数387名・死者245名、死亡率は63・3
%と依然高い状況が続いています。（国立感
染症研究所感染症情報センター）

現在、『鳥インフルエンザ』のワクチン接種
が、一部の大学病院などで始まっていますが、
効果が未知数な上、まだ安全性が確立され
ていません。抗インフルエンザウイルス薬【タミ
フル】の備蓄も進んでいますが、備蓄数は予
定量の4分の1以下と依然不足し、それをど
のように分配・使用するか決まっています。
入院施設もありますが、日本人の4人に1人
（3,200万人）が感染し、死亡者は64万
人に達すると予測されているにも関わらず、
専用病床は県内全体で22床のため、現
实的に入院治療を受けられる状況では
ないと考えます。新型インフルエンザが
世界各地で爆発的に流行する状況【パ
ンデミック】になると、実際、多くの方
が感染・発症します。

《新型インフルエンザのパンデミック》

40%の労働者が欠勤することが予測されるため

- 医療・診療体制が崩壊する
 - 交通手段が使えるなくなる
（公共交通機関の停止・ガソリン供給の停止）
 - 学校や保育施設が閉鎖される
 - 食品や日用品の供給が滞る、または停止する
 - 電気・ガス・水道が使用
できなくなる
 - 治安が悪化し、盗難・強奪等
が増える など
- ※以上のことが全国各地で
同時に発生します



日ごろの予防が大切

このような危機的状況に対し、本年度か
ら庄原市（備北地域）では、「備北地域感
染症専門部会」という組織を中心に、市・
保健所・警察・消防・医師会・庄原赤十字
病院が連携・協力し、新型インフルエンザの
対策を進めています。しかし、その対応には
限界があり、併せて市民の皆さん一人一人の対
応・予防が重要だと考えます。

ご自身だけでなく大切な家族・友人を守
るためにも、インフルエンザに負けない体づく
りと予防に努めましょう。

年間を通して注意すること

- 外出後（帰宅時）、必ずうがいと石けんを使って手洗いをを行う
- 十分に休養をとって、抵抗力を高める
- 日ごろからバランスの良い食事、栄養素をとる

インフルエンザ流行期（通常 11月～4月）に注意すること

- 人が集まる場所や病院に行く際は必ずサージカルマスク*を着用する
- ※症状の有無に関わらず、来院されるご自身やご家族、入院患者さんの身を守るためにとても重要です。
通常のガーゼマスクは効果が低いので、『サージカル』と名のつくマスクもしくは、『ウイルス除去率～%』
というマスクを着用しましょう。
- インフルエンザワクチンを接種する
 - 人混み、繁華街への不必要な外出を控える
 - 新型インフルエンザの情報に耳を傾ける
 - インフルエンザ流行地への旅行や訪問を避ける

